

登録コード:MH316300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	義肢学【20M～24M】 Prosthetics			
担当教員	青木 薫 佐賀里 昭・西澤 公美・小宅 一彰・北川 孝・岡野 怜己			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/ 3 年 前期 火曜・ 2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 1 1 講義室	保健学科 1 3 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		義肢が必要となる病態を理解し、適切な義肢・断端訓練を選択することができる。	
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		義肢が必要となる病態を理解し、適切な義肢・断端訓練を選択することができる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道德的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		義肢が必要となる疾患、病態を学習することにより、障害に対して科学的にアプローチして対応する能力が身についている。	
	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	義肢は切断患者の障害を代償するものであり、部位と用途によって最適なものを装着する必要があります。四肢の切断と切断者の心理、義肢作製のプロセス、各種の義肢装着のための評価・訓練を中心に学習します。 本授業は、2年次に学んだ「整形外科学」、「精神医学」、「小児科学」、「臨床神経学」の知識を前提とし、3年次に学ぶ「装具学」、「運動疾患の理学療法」、「スポーツと理学療法」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次にの臨床基礎実習、4年時の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における整形外科医、リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第 1 回 (4月14日) 切断術概論・切断術後の断端管理 (青木) /OT「義肢装具学」と合同講義 第 2 回 (4月21日) 下肢血行障害と切断 (青木)/OT「義肢装具学」と合同講義 第 3 回 (4月28日) 腫瘍と切断 (青木)/OT「義肢装具学」と合同講義 第 4 ・ 5 回 (5月19日) 義手概論 ・ (佐賀里)/OT「義肢装具学」と合同講義 (1 ・ 2 時間目の時間帯に実施します) 第 6 回 (5月26日) 中間試験 (青木・佐賀里) 第 7 回 (6月 2日) 切断患者の術後評価 (岡野) 第 8 回 (6月 9日) 切断患者の術後訓練 (小宅) 第 9 回 (6月16日) 義足の分類・構造・機能 (岡野) 第10回 (6月23日) 切断の理学療法概論・術前評価・術前訓練 (西澤) 第11回 (6月30日) 切断の理学療法の実践 (西澤) 第12回 (7月 7日) 下腿義足 (西澤) 第13回 (7月14日) 下腿義足 (西澤) 第14回 (7月21日) 大腿義足 (北川) 第15回 (7月28日) 義肢装具士の役割、授業アンケート (青木・齋藤) 第16回 (8月 4日) 期末試験 (青木・佐賀里)			
授業の進め方	スライド、配布資料を用いて講義を行います。義肢への理解を深めるため、実際の義手、義足に触れる実習も行います。			
テキスト、教材、参考書	教科書 義肢装具のチェックポイント 医学書院 参考書 切断と義肢 医歯薬出版			
成績評価の方法	提出レポート・試験に基づいて、総括的に成績を評価します。 総括的評価の配分は、レポート20％、中間試験30％、期末試験50％とし、総計の60％以上の得点を合格とする。 中間・期末試験では「四肢切断が必要な疾患・病態を理解しているか」、「切断の適応・方法を理解しているか」、「切断後の断端訓練を理解しているか」、「義肢の種類、装着・適合判定を理解しているか」を確認します。			
成績評価の基準	中間試験、期末試験、レポートの総計により、成績評価の判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀，80-89点：優，70-79点：良，60-69点：可			

成績評価の基準	なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある(可)」，やや詳細な解答内容であれば「やや上にある(良)」，十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある(優)」，授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している(秀)」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業終了時に、次回までに学習しておく内容についてを説明します。 【事後学習について】 授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習してください。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とする。 $\text{授業時間30時間（2時間} \times \text{15回）} + \text{事前・事後学習時間15時間（1時間} \times \text{15回）} = 45\text{時間}$ 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組むこと。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	作業療法学専攻との合同講義の日程があるので講義日程を事前に確認してください。 質問への対応：青木 薫 kin29men@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎1階 青木研究室